

不法投棄された ごみ回収

大東・大原
ホッパの会

一関市大東町大原で製鉄文化の継承活動などを行う「ホッパの会」(勝部昌平会長)は20日、砂鉄川の源流地点の沢(大原字樽原地内)に不法投棄されたごみの回収作業に取り組んだ。同会は9月に同地内で源流を伝える標柱を更新した際に放置されたごみを発見したこと、地元の製鉄文化を守る一環として今回の回収事業を計画。

当日は会員5人が参加し、地元建設業者の協力を得て、標柱付近から10〜20メートル下の沢に不法投棄されたテレビ3台とファンヒ

ーター、パソコン各1台を積載型のトラッククレーンで回収した。

同会によると、不法投棄が発見された場所付近は地元住民も通ることが少なく、ごみも長年放置された



砂鉄川の源流地点に不法投棄されたごみの回収作業に取り組んだ「ホッパの会」の会員ら

とみられており、常習的なごみのポイ捨てはないという。

同会では来年度の総会で源流付近の環境整備の対策を検討する方針で、副会長の菊池文悦さん(64)は「地元の文化を守るためにも地元団体や自治会と連携して環境保全にも努めていきたい」と話していた。